

## 中部山岳地域における融雪期の河川水質変動

## Chemical dynamics of stream water in the snowmelt season, Japanese Alps.

# 倉元 隆之 [1]; 南波 雅治 [1]; 鈴木 啓助 [1]

# Takayuki Kuramoto[1]; Masaharu Nanba[1]; Keisuke Suzuki[1]

[1] 信大・理・物循

[1] Dept. Environ. Sci., Shinshu Univ.

中部山岳地域の多くは冬季に積雪に覆われる。冬季に積雪として蓄えられた水は、融雪期に集中的に流出する。また、冬季に沈着した化学物質は、融雪初期に集中的に流出することが知られている。そのため融雪期の河川水質変動は、積雪地流域の物質循環を考える上で、重要であると考えられる。本研究では、定期的に河川水を採取し、融雪期の河川水質変動の特徴を明らかにすることを目的とした。

調査は、北アルプスの東側斜面で行った。研究対象流域の標高は1470mから3026mである。河川水は自動採水器を用いて定期的に採取した。いずれの試料も、ろ過をした後、pHと電気伝導度を測定し、イオンクロマトグラフによって、主要イオン濃度 ( $\text{Na}^+$ ,  $\text{NH}_4^+$ ,  $\text{K}^+$ ,  $\text{Mg}^{2+}$ ,  $\text{Ca}^{2+}$ ,  $\text{Cl}^-$ ,  $\text{NO}_3^-$ ,  $\text{SO}_4^{2-}$ ) を測定した。河川水は、硫酸滴定法により、 $\text{HCO}_3^-$  濃度を測定した。河川水のpHと電導度は、流出高と鏡像関係にあり、流出高の増加時には低下し、流出高の減少時には高くなった。